

長崎県教育庁から

学校の名前は混合でもさしつかえない

逐次刊行物

平成 6年, 6, 11 号

国立婦人教育会館

という答が、~~長崎県教育庁~~から来た。



3月17日、長崎県内の公立全日制高等学校の合格者が発表になりました。例には、各新聞社の号外があられ、当日の夕刊、翌朝の朝刊にははさまれられて配送されました。

どの社の号外も皆同じ合格者名の並べ方です。次の様に氏名が並んでいるのです。

公立高校合格者速報

長崎東高

▽東高受検
 浦宗昭、小野原善一郎、高村智博、譚亮、村上天元、池田憲彦、糸永憲正、井上崇、城崎孝浩、中島昌平、増崎隆彦、宮崎法隆、氏原優太、江口賢輔、梶口宜弘、中村正弥、森恒平、山本公明、江島圭亮、田川秋徳、中島浩一、増田雄一、馬渡修、國分卓也、小西竜太、野崎英治、松尾良次、森山太郎、田中道伸、中村誠一、森篤史、山下裕平、吉井幸宏、本間隆志、浦田良、岡本

▽南高受検
 小川陽平、平戸通哉、森保聡、小松紀夫、竹口幸一、野道謙典、立山勝斗志、谷川慎一、西村和樹、中野靖之、野茂大樹、春尾和人、時津浩、小川真太郎、松原由季、濱崎亜希子、徳永陽子、古川瞳、田中留衣、宮崎恵一、ノ瀬楽、堀江順子、寺濱美晴、深堀良子、阿比留しのぶ、立木愛
 △北高受検
 築城宏太郎、土井高志、山田周作、林崇郎、今村光憲、熊代俊介、源城篤志、山田泰一郎、山市公洋、若佐里香、川本真規子、松尾愛子、松下陽子、山中彩子、吉川道子、浦川麻衣、永山映子、大古志帆里、中島志保、丸尾有喜子、上田梓子、山崎ゆかり
 △北陽台高受検
 加藤良平、川上達也、肥喜里浩一、松本弥伸、宮原幸太、安永恵生、山口護、近藤超子、田中明子、谷口美穂、田村桂子、浜村葉瑠奈、林聖子、本田梨恵、豊田紗英子、福島めぐみ(以上四、五名)

おて男子の名前が先、女子の名前が後 なのです。

どうしてなのでしょう？

毎年、この通りの方法で発表がされているのです。どうして男子生徒、女子生徒をこれ程迄に分けるのか？

そこで次頁にのせた、九州大学と熊本大学の合格発表を見て下さい。

こちらは、おての学部が男女混合名簿になっています。



九州大学は、こんなところだ。

経済学部

○経済学科
安部雅子、麻生雅美、阿部一恵、安倍康博、荒木亨、有江孝之、有村通孝、飯塚孝次、伊賀久訓、池田新平、石川功、石黒真理、井手はづみ、伊藤圭、稲富勝則、井上裕司、井上祐介、岩橋ミユキ、岩淵いづみ、内田恵介、梅田亜希、梅原正、瓜生祐史、宇留嶋雄一、江頭伸枝、瀬河圭、江口邦彦、恵利里美、大内江美子、大神智子、大財志郎、大堀輝昭、大山丈二

農学部

青電太郎、浅野陽樹、阿納新史、安部謙、荒木恵利加、荒巻厚志、安藤勝弘、池田昌平、池田千香子、石川元、石川美和、石田朗子、石田崇、石田裕加、里、猪立山三鈴、市浦英明、伊月亜有子、伊藤元徳、井道裕史、稲葉広美、井上貴枝、井上善之、井上義之、今田正人、入江大輔
岩田雄一郎、岩本奈都子、岩吉里佳、植田融、上田しのぶ、上ノ藤雅子、内海達一、浦川貴司、占部義隆、江口忠宏、江藤和美、江原史雄、江村卓郎、大倉健一、大城亜紀子、太田順

熊本大学は出身校入りです。

【法学部】

○法律学科
松本和夫(第二)松本一彦(真和)橋口貴宏(筑紫氏)壽小百合(福岡)藤吉美紀(佐賀)館今別府美保(真和)佐平啓一(筑紫氏)甲斐誠(九州学院)鬼塚謙一郎(城南)中野英二(済々黈)沼川健(熊本)古庄貴子(三池)熊本涉(東明)館高木康徳(佐世保南)板平憲洋(九州国際大学付属)横手正孝(真和)山下幸一(熊本)北 福永浩之(都城西)川野あすか(真和)植山茂(熊本北)堀下明将(第二)友松哲平(京都)矢野美里(三池)植山靖正(中津南)野崎薫代(福岡)末次敬広(豊津)深川貴史(佐賀)西 古城俊(大分上野丘)岡崎洋平(筑紫)立石りえ(台畑)木部雅子(済々黈)金子晴洋(佐賀)山本みどり(嘉穂)小松亜紀子(八幡)愛甲桃子

【文学部】

○哲学科
古賀太朗(西南学院)芦刈さつき(九州国際大学付属)永島良一(嘉穂)松村美樹(八代)吉田英司(鎮西)佐伯奈美(熊本)橋本昌典(豊浦)吉田聡美(済々黈)竹越光寿(済々黈)土居いづみ(都城西)倉原さや



とて ばてんうーまん達は 聞かに行き事にしよ。

どうして公立高校は 男子が先 女子が後という名法で 合格発表をするの？

4月15日(金) 津田尚美、饒田美津子、葛西よう子の3人で午後4時、長崎県庁へ出向された。

おが 県教育庁 総務課へ。

主事の田淵 人に逢い、これを担当したのは学校教育課であると教えてもらった。

とて 学校教育課へ。

おが 総務係長 赤田 龍一 さんの話を聞く。 ばてんうーまんの会の紹介を、会報を渡す。

担当者という事で 総務課長補佐の中村 さん 登場。

中村 さん: 名法は各学校が各新聞社へ渡したものだと思ふ。各学校が名法を作るが、長崎県立の普通科、全日制の高校は5校あり、合同選抜制をとっているのが 共同作業としている。多分、当番制で5校が集まって決定していると思う。発表のやり方、報道のあり方には、県教育庁は1-2ヶ所である。

県教育庁が決めるのは募集日時、受験票の様式だけである。

今、大分県会議があつて、高校関係者があつて出揃っているの？ 内容はわからない。

私達の持参した発表速報を見て。

こう大きく別れている所を見ると何らかの男女別というのがあるのではうね。

ばてんうーまん: 4月12日 朝日新聞の天声人語をとり出して示す。 おどみになりましたか？

天声人語

男子学生ばかりだった東京六大学野球に、女性選手が登壇するかも知れぬという。二月に米大学野球で女性選手が完投勝利した。先週の東京六大学野球連盟理事会でそれが話題になり、女性の部員登録を認めることを確認したのだ。さうな▼卒業式や入学式が相次いだこの季節、各地の学校で混合名簿を使い始めた、という話を聞く。今までは、男子を先に、女子を後にして、それぞれ五十音順に並べていた。性別にとらわれず、全員を五十音順に並べるのが、混合名簿である▼京都府向日市のすべての公立小、中学校、富山市の富山ろう学校などでは、全校、卒業式の名簿を男女混合型にした。こういう改革は、十年あまり前から始まり、各地にじわじわと広がっている▼「男が先・女は後」が当たり前前、と小さい時から思われれば、自然に両性のあり方について固定観念ができてしまつたろう。平等な両性が

一緒に社会をつくっていることを、実践面でも名簿上でも日々実感しながら育つのが望ましい▼両性平等を教えよう、この問題に積極的な教育委員会もある。たとえば、大阪府教委や東京都の国立市教委などである。全国的にみれば、混合名簿をとり入れている学校は、まだ、一、二割の段階だろう。学校では、出席簿、指導要録、校内名簿など多くの名簿を扱うが、性によって分けるのは慣習でその規定はない▼今月から高校の家庭科が全員必修となり、小学校から高校まで家庭科は両性の「共修」となった。家庭科は連合国軍総司令部の指導で、戦後、新設された。後に高校では女子だけの必修科目となつたが、一九八五年の女性差別撤廃条約批准を受けて、再び「共修」となる▼野球も家庭科も何やら「外庄」による改革の観がある。教師の間から起きた名簿の改革が、もっと進むとよい。後になって振り返れば「当たり前」の話だろう。

中村 さん: 読みました。

ばてんうーまん: (九州大学、熊本大学、西南学院大学、福岡大学 などの九州地区の大学の合格者名簿をとり出して示す。)

各学校が独自にやっている といつても、少くとも学校教育に関する事は、こゝでしていらつたやうではう。

いつも男が先、女が後という名法で事をするのは差別です。

ぜひ今後、混合名法にしてほしいのです。

男が先、女が後という新聞社に渡した名法があるという事は、だれか人間がそれを作つたという事です。その人に逢つて、どうしてあつたかを聞きたくてやってきました。

中村 さん: 事務上の都合ではないでしょうか とにかくこゝではわかりません。

ばてんうーまん: では誰に聞けばわかるのですか。何時、どこへ行けばわかりますか。高校に関する実務担当の人を教えてください。

とて 学校教育課の指導主事 広田 さんが席につく

広田 さん: 合格者名法は各学校で決めます。男が先、女が後とは、こゝでは指導していません。

ばてんうーまん: 受験番号が男が先、女が後にあつてゐるのはありませんか。

広田 さん: 各学校に聞かないとわかりません。

ばてんうーまん: では各高校が職員会議等で決めたら、各高校の一存で混合名法になり得るのでは。教育庁は一切関知しないのですか。

広田さん: どちらは何もしていません。例え混合名法にあっても、不都合はありません。

ばてんうーまん: 各クラスの名法を混合にして下さいと申し入れをした時、「学校長の一存では出来ません」と言われました。

中村さん: 各学校がやる事は、男が先、女が後とは一切指導していません。受験票の形式だけは、こちらで決定しますが、それ以上は何も知りません。男が先、女が後という法的なしほりは何もありません。

ばてんうーまん: では個人的にはどうか考えになりませんか。

広田さん: 合格発表は混合でもさしつかえがないと思います。

中村さん: 実務的に、クラス別での利便性などではあるが、どうなのか。

ばてんうーまん: どうして男ばかり、女ばかりとか、男が先、女が後、片寄ったクラスが出来たらダメなんでしょうか。

広田さん: せや、両方いるのだから半々が良いでほう。

ばてんうーまん: せや、両方いるのに、どうに分けるのよ。来年からは合格発表は混合でも良いでほう。

中村さん: 各学校には色々な事情があるでほう。こちらは学校宛には何も言えません。学校の独自制があるから。

ばてんうーまん: 広田さん「天声人語」はお読みになりましたか。

広田さん: まだです。今お読みします。

ばてんうーまん: 長崎県が日本で最後に混合名法を採用する県にならな様にお願いします。男の人がいつも男が先、女という環境で生活してきたので、これを区別だと言いますが、女の方がいつも後だというのは、女の側から見れば差別です。

「親の為に分ける」「体育の為に分ける」という理由で差別されるのはやです。

合格発表に男が先、女が後というのはおかしい。各学校がそうしているのなら

教育庁こそ基本理念として指導すべき事だと思えます。このお役所の存在価値はそこにあるのではないですか。各学校で男女を分けていたう、こゝに正しさを求めようではないですか。

広田さん: 電気の研修会があるから、そこへ出席される先生方に、この事を提出して考えてもらう。話題として出してみる事は出来ます。

ばてんうーまん: 今年も混合にしたい。→ 今年の混合にしたい。昨年の教員の要請発表が男が先、女が後はおかしいと申し出て